

## 就学相談に関するアンケートの実施について(報告)

### 1. 実施の背景

平成 28 年度に実施した「教育委員会の点検・評価」の施策 4「特別支援教育の推進」では、今後の方向性として、相談対応力の向上を図るため、相談者の利用後の満足度を把握するフィードバックアンケートの実施について検討することとしていました。

そこで、当時策定中であった第 2 次特別支援教育実施計画の始期に合わせ、翌 29 年度の就学相談より、利用者に事後のアンケートを実施し、取組項目の一つである『就学相談の充実』に向けた指標を得ることにしたものです。

### 2. 調査の概要

- ・ 調査対象 平成 29 年度に本市の就学相談を利用した保護者 88 世帯  
(小学校への就学 64 世帯および中学校への就学 24 世帯)  
※相談のお申込みがあった 117 世帯中、以下のケースを除く。
  - ・ 保護者からの申し出による相談中止 22 世帯
  - ・ 相談終了後に市外へ転出 2 世帯
  - ・ 特別支援学校幼稚部に在籍しており就学支援部会省略 5 世帯
- ・ 実施時期 平成 30 年 8 月
- ・ 実施方法 アンケート用紙(別添 1)の郵送による
- ・ 有効回答 44 (回答率 50.0%)

### 3. 回答結果(資料 1)から読み取れること

#### ○就学相談の申込みのきっかけ

- ・ 小学校への就学(年長児)では、「発達や行動などで心配があって」を理由に挙げた保護者が 9 割を占めた。在籍園や主治医、発達相談員など、お子さんの成長発達を日頃から相談している関係機関から勧められたことがきっかけになった方も 3 割を超えている。
- ・ 中学校への就学(小学 6 年生)では、「特別支援学級に在籍していたから」を理由に挙げた保護者が 6 割、「学習や生活面などで心配があって」、「在籍校の先生に勧められて」と回答した保護者が 5 割であった。中には、「キラリの先生に勧められた」との回答もあった。

#### ○初回面談について

- ・ 約 6 割の保護者が夏休み前(4~7 月)に初回面談を行っており、うち 2 割は、就学相談説明会(5 月第 2 金・土曜日)よりも前に面談を予約している。就学の前年を迎えたら早めに相談したほうが良いことが保護者に浸透しつつあると言える。
- ・ 初回面談の時間は、「ちょうど良い」と回答した保護者が 7 割を超え、おおむね妥当と思われる。
- ・ 初回面談時の満足度を 10 点満点で評価した場合、「相談員の第一印象や話しやすさ」が 8.16 点で最も満足度が高かった。反対に、満足度が低い点は「保護者の疑問の解消、不安の軽減」(6.60 点)、次いで「就学先決定に関連する学校等の情報提供」(6.74 点)であった。初回は、お子さんの基本情報の聴き取りに面談時間の大部分を費やしていること、また、お子さんの障害の状況等について深く突っ込んだ話ができるまでの関係性には深まりにくいことから、保護者の要望すべてにお応えする内容には至っていない。

#### ○特別支援学級や特別支援学校の「見学」について

- ・ 半数以上の保護者が、特別支援学級の見学をしている。また、2 割超の保護者が、学校公開日等を活用して特別支援学級や特別支援学校の見学を個人的に実施している。

- ・見学して良かったこととして、「クラスの雰囲気や授業の様子が分かった」との回答が9割近くで最も多く、次いで「学校の設備や教室環境が分かった」を選んだ保護者も8割いた。実際に足を運んでみることで、在校生や学校の様子を理解することにつながっている。
- ・改善や工夫を希望する点は、「見たい授業科目が選べると良い」が最も多く、「通常の学級も含め学校全体の様子が知りたい」、「校区以外の学校も見学できると良い」との回答も4割近くに上った。受け入れ先の校内事情や、学区制に基づく見学可能校の指定など制約はあるが、いろいろと見比べて就学先を判断したいという保護者の要望が現れている。

#### ○特別支援学級や特別支援学校の「体験」について

- ・特別支援学級等の見学をした31人中、4分の3にあたる児童が特別支援学級での授業を体験している。また、特別支援学校で体験を実施した児童も2割を超えている。
- ・体験して良かったこととして、「就学後の子どもの様子がイメージできた」との回答が約7割で最も多く、次いで「教員や介助員の関わり方が分かった」を選んだ保護者も6割超であった。また、「他の子どもたちの関わりを見ることができた」、「教材や授業の進め具合が分かった」との回答も4割前後あり、学んでいるお子さんの様子を実際に確かめられることに加え、在校生からの優しい声かけや、教育課程の違いを知ることが就学先を決めるうえで大きな意味を持つことがうかがえる。
- ・改善や工夫を希望する点は、「体験したい授業科目が選べると良い」が最も多く、校区以外の学校や、通常の学級でも体験ができると良いとの回答も、見学の希望と同様、上位を占めた。

#### ○就学相談のプロセスごとの満足度

- ・プロセスごとの満足度を10点満点で評価した場合、「相談員との連絡の取りやすさ」が7.39点で最もポイントが高かった。反対に、最も満足度が低かったのは「発達検査や医師診察の受けやすさ・費用面」(5.02点)で、専門の医療機関の混雑状況や予約の取りにくさ、診断書作成等にかかる保護者の費用負担、子ども未来センターで受ける場合の日時の制約などが、ポイントの低さにつながったものと考えられる。

#### ○就学支援等検討委員会からの提案について

- ・就学支援等検討委員会の判断および就学先の提案を聞いた時の保護者のお気持ちとして、「希望どおりでホッとした」との回答は5割にとどまり、約半数の保護者が不安やショック、提案への疑問を感じている状況がうかがえる。中には、委員会判断に対する強い不信感を訴えるご意見もあった。
- ・最終的な就学先として、8割の児童が「就学支援等検討委員会からの提案と同じ就学先」を選択しているが、2割弱の児童は「提案と異なる就学先」を選択している。東京都内の平均では、1割程度の児童が提案と異なる就学先を選択しているとの統計があり、本市はその2倍である。
- ・就学先の決定にあたっては、さまざまな要素を加味しながらも、最終的には「家族間の話し合い」が決め手になったとの回答が2割超であった。保護者とお子さん本人、夫婦間、あるいは祖父母との合意形成を支援していくことも、相談員の大切な役割の一つであると思われる。また、「その他」のご意見として、在校生や卒業生の保護者の体験談や口コミも有用な情報として挙げられている。
- ・提案の方法等に関する改善点として、半数の保護者が「審議の経過や委員の顔ぶれを教えて欲しい」、「個人情報の開示請求なしで相談資料のコピーが欲しい」、「通知文書の中に、提案理由の詳細を書いて欲しい」など、判断結果がまとまるまでの透明性や妥当性、納得感を求めている。また、子ども未来センターが開所している日中にご連絡の取りにくい保護者が増加していることを反映し、連絡手段や時間帯について工夫を求めるとのご意見もあった。

#### ○就学支援シートについて（小学校への就学児童）

- ・就学相談を利用した年長児のうち、4分の3にあたる世帯が就学支援シートを利用しており、ほぼ全員が入学前の学校面談も希望していた。就学相談を通じて支援ファイルが引き継がれるため、シートの提出は不要と考えた保護者も2人あったが、内容や活用場面の違いについて、さらに保護者に分かりやすく周知していく必要がある。

#### ○就学後の学校生活の満足度

- ・学校生活での支援や配慮に関する満足度を10点満点で評価した場合、「担任の先生のご理解や、相談のしやすさ」が7.51点で最もポイントが高かった。反対に、最も満足度が低かったのは「校内での就学支援ファイルの内容共有や配慮」（5.88点）で、「就学相談で伝えていたことや医師の所見が校内で共有されておらず、何度も話さなければいけなかった」、「教科の先生が変わるたび、バラバラな対応をされて子どもが混乱した」などのご意見があった。
- ・学校への引継ぎに関する改善点として、半数近い保護者が「どんな内容が引き継がれているのか、保護者にも分かりやすくしてほしい」を選択している。また、「就学支援ファイルの十分な共有と、統一的な配慮や支援」を望む声も高く、「就学先の先生が、就学前機関での子どもの様子を見たり、担任の先生から直接話を聞いたりしてほしい」など、児童の状況をより深く理解するための取り組みを期待するご意見が目立った。

#### ○就学相談の全体について

- ・就学相談の全般をとおして、その満足度を100点満点で評価した場合、全回答者44人の平均点は、78.1点であった。10点未満が2人（最低点2点）いたが、70点以上の回答が8割超を占めており、「100点満点」と回答した保護者も3人いた。おおむね一定の評価を得ているものと考えられる。

## 4. 自由意見を含めた総括

#### ○就学相談の役割や対応範囲について、より一層丁寧な保護者への情報提供が必要。

就学相談では、面談の内容・回数・間隔があらかじめほぼ固まっておき、保護者側に主導権がないことや、保護者の意向に沿わない提案を差し上げる場合があること、特別支援教室（通級指導学級）の入級判定は別ルートでの審査が必要であるなど、保護者が想定している相談の持ち方や、他自治体の流れと異なる点も多い。

複数回の来談や受診費用のご負担もある中、就学相談にお寄せいただくご期待が高いほど、裏を返せば、説明不足や行き違いにより、強い不信感や失望につながる。

就学相談でできること・できないこと、メリット・デメリットを含め、保護者にとって、なお一層の分かりやすい情報提供と相互理解が必要である。

#### ○特別支援学級等の見学や体験のあり方について、設置校との十分な連携や事前準備が必要。

見学や体験は、学校開庁日の授業中に行うため、在籍している児童・生徒に支障を来さないよう、時間帯や参加する教科の調整等、必ずしも保護者の希望どおりに実施できない場合もある。しかしながら、学校公開日の情報提供や、事前に保護者に学校要覧等の資料をお渡しするなどの工夫により、学級担任の先生のご負担を増やさずに保護者の満足度を向上させる余地はある。保護者に学校事情をご理解いただく取り組みも不可欠である。

#### ○就学支援等検討委員会の判断結果の伝え方に工夫や改善が必要。

就学相談の過程で収集される児童の実態把握表や医師等の意見書、発達検査の結果等は、本市の個人情報開示制度において「開示できない場合がある」とされている、「個人の評価、診断、判定、指導、選考、相談等に関するもの」に該当する。そのため、就学支援等

検討委員会の判断結果を保護者に提案する際は、これまで相談員等からの口頭による説明を主な手段としてきたが、提案に対する保護者の納得感や信頼感、就学後のご協力を得るうへでは、審議の経過や判断の根拠を明確にすることが不可欠である。また、引継ぎを受けた学校側にとっても、実際の支援や配慮を行う際の有効な資料として保護者と共通認識を持ちやすく、個別指導計画の作成等にもつなげやすいメリットがある。

一方、詳細な議事録の公開は審議にあたる委員の率直な見立てや発言を妨げる可能性がある。その点に留意しつつ、情報開示の方法や基準について慎重な検討が必要であるが、保護者との合意形成や、就学後の適応を円滑にするため、一歩進んだ対応が求められている。

○就学後の継続相談の実施について、目的や効果、対象者の検証が必要。

平成 29 年度の就学相談利用者より、就学後 1 年程度、相談を継続していく対象者の範囲を拡げ、就学支援等検討委員会の提案と異なる就学先か否かを問わないこととした結果、フォロー該当者が前年度の 3 倍に上っている。「就学後も心配ごとが生じたら、三者面談で解決ができる」と歓迎する保護者がいる一方で、「継続相談を 2 回実施したが、意味がない」と感じる方もいるなど、継続相談の目的や、学校が行う支援や配慮について、保護者と共通認識を持つまでに至っていないケースもある。就学後の状況によって、就学相談を利用したことに対する評価が変化するため、学校との一層の連携が欠かせない。

## 5. アンケート実施後の取り組みについて

いただいたご意見・ご要望を踏まえ、以下の点について取り組みます。

○平成 30 年度中に実行するもの

- ・集計結果について、校長会・副校長会、特別支援教育コーディネーター研修等の機会を活用し、周知および今後のご協力を依頼する。また、市ホームページ等に掲載し、結果を公開する。
- ・市内幼稚園、保育園等の就学前機関にも集計結果を送付し、就学支援ファイルの作成や園の訪問による児童把握等へのご協力を、重ねて依頼する。
- ・特別支援学級や特別支援学校の見学・体験を行う際、保護者には事前に学校要覧や教育課程に関する資料を提供できるように、相談員用の資料集を作成する。
- ・31 年 3 月に、年中児（31 年度就学相談対象者）の保護者向けに、就学相談のご案内チラシを配布し、より早期からの相談勧奨と、就学相談を受けるメリット等を周知する。

○平成 31 年度に向けて検討・準備するもの

- ・従来は 4 月から相談の受付を開始し、5 月に就学相談説明会を開催していたが、順序を逆にし、就学相談説明会の開催後に受付が開始できるように、説明会の開催時期を変更する。
- ・初回面談の効率性および有効性を高めるため、保護者のニーズ（例：どんなことを就学相談に期待しているか等）をよりの確に把握できるような「受付票」を開発する。
- ・保護者の育成団体が開催している先輩保護者の体験講演会や、保護者同士のおしゃべりカフェ等の活動を、これから相談を受けようと考えている保護者にどうぞ紹介していけるか、共催のあり方を団体と協議する。
- ・就学支援部会の記録および就学支援等検討委員会の審議経過について、まとめ方や引継ぎの手段など、どのように保護者や学校と共有していくのが望ましいか、方法を検討する。
- ・就学相談の質の維持・向上を図るため、定期的かつ継続的な研修のあり方を検討する。

※回答者および相談員個人が特定されないことやプライバシーに配慮する観点から、調査項目のうち、自由意見部分については非公開としています。

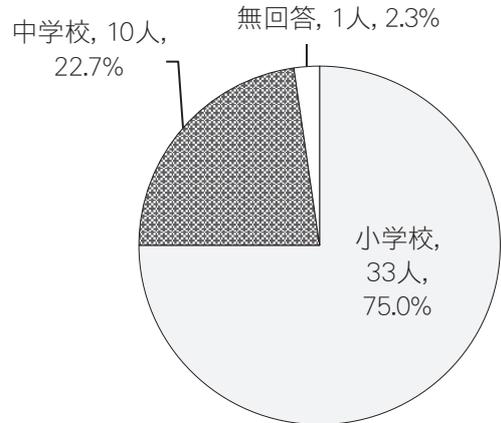
# 就学相談に関するアンケート 集計結果

平成30年9月27日  
第18回教育委員会定例会  
教育部 教育支援課資料 1

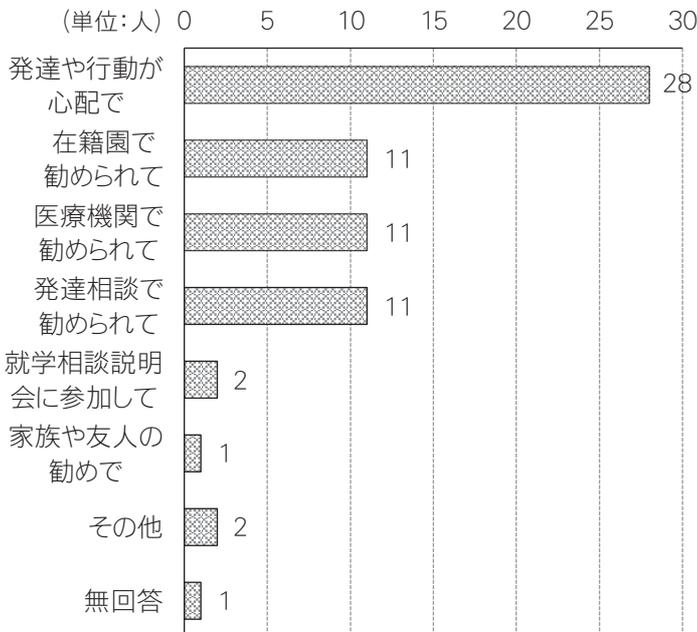
## <調査概要>

- 対象者：88世帯  
平成29年度に就学相談を利用した保護者117世帯中、途中で相談を中止した方や、相談終了後に市外に転出した方など、計29世帯を除く。
- 実施時期：平成30年8月
- 実施方法：郵送
- 有効回答：44 (回答率50.0%)

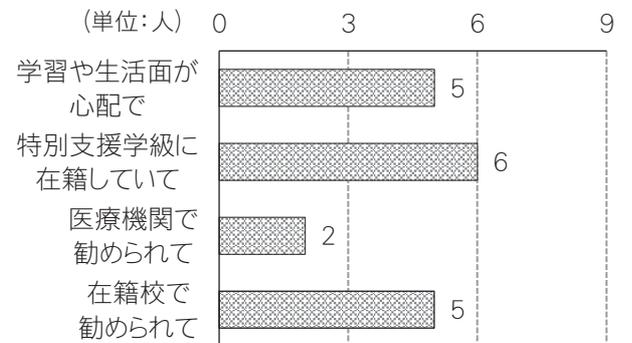
## Q1. お子さんの就学は？ (n=44)



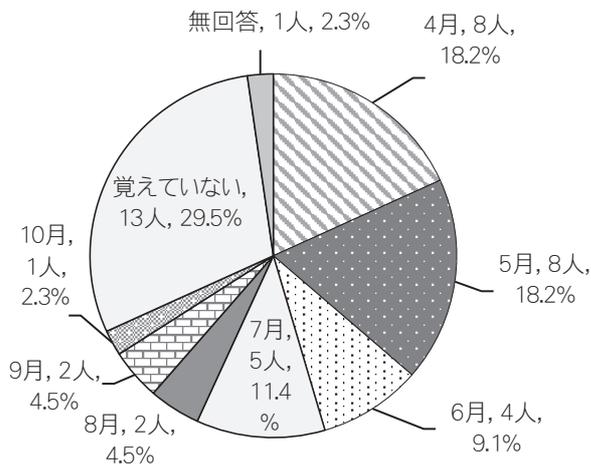
## Q2. 【年長児】申込みのきっかけ (複数回答/n=33)



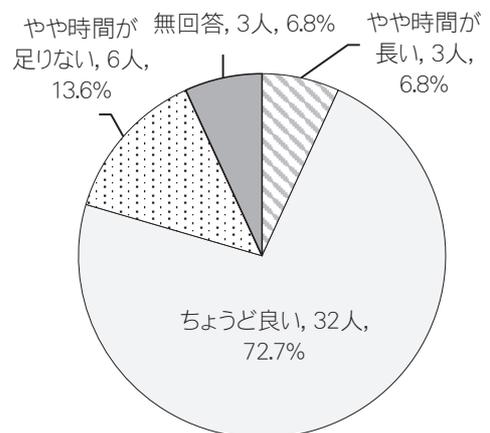
## Q2. 【小6】申込みのきっかけ (複数回答/n=10)



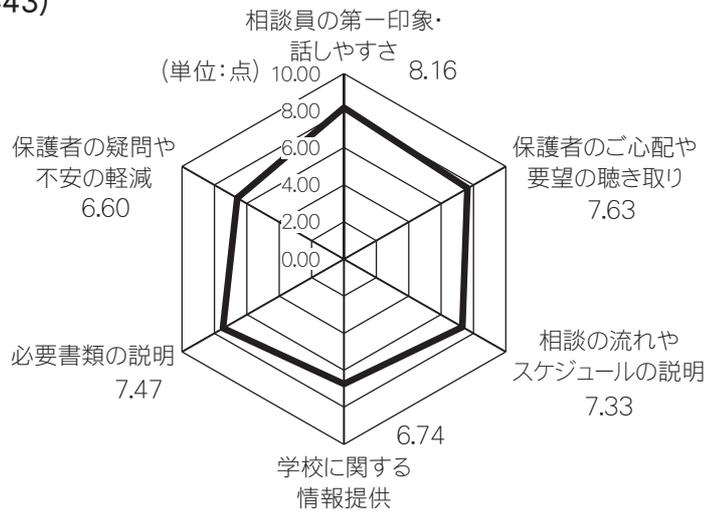
## Q3-1. 初回面談の時期 (n=44)



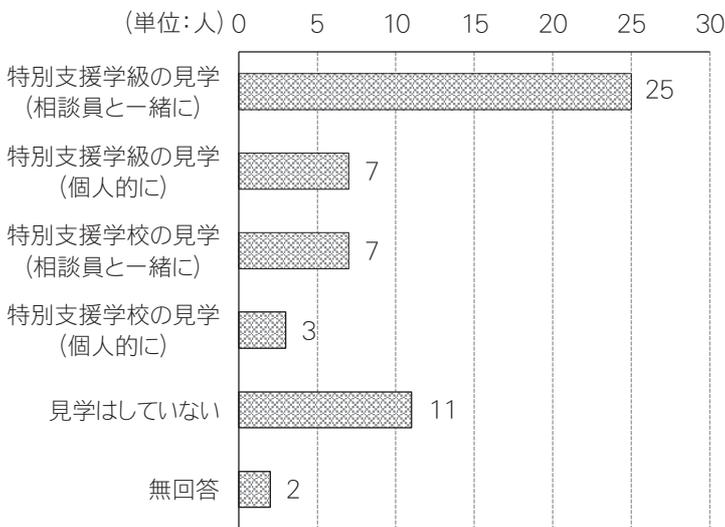
## Q3-2. 初回面談の時間 (n=44)



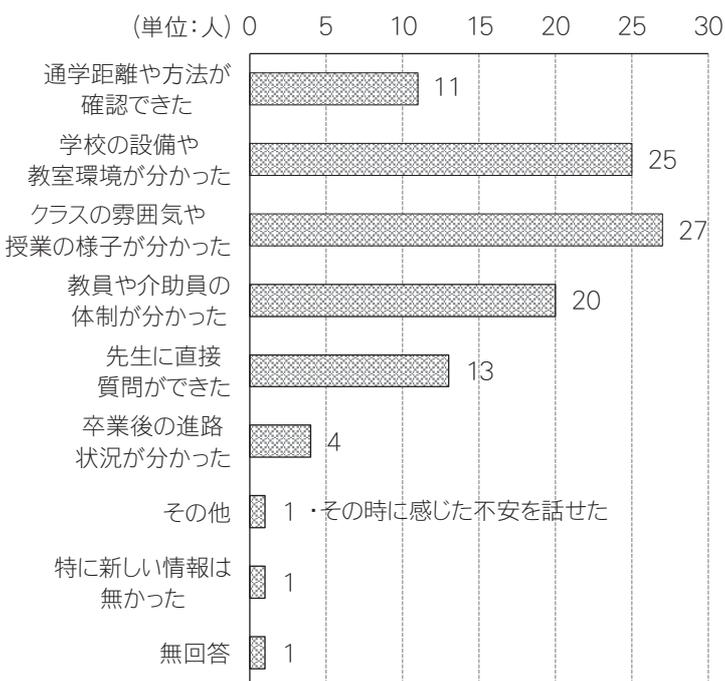
### Q3-3. 初回面談の満足度 (n=43)



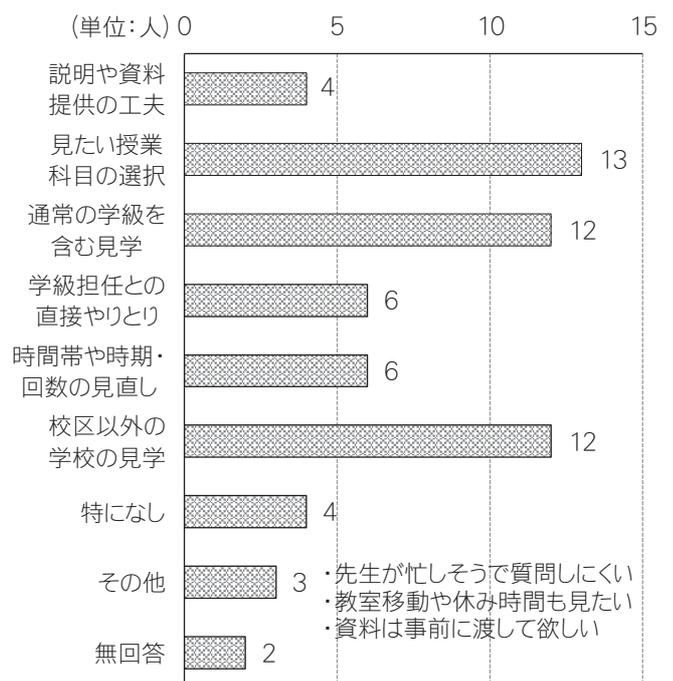
### Q4-1. 特別支援学級等の見学 (複数回答/n=44)



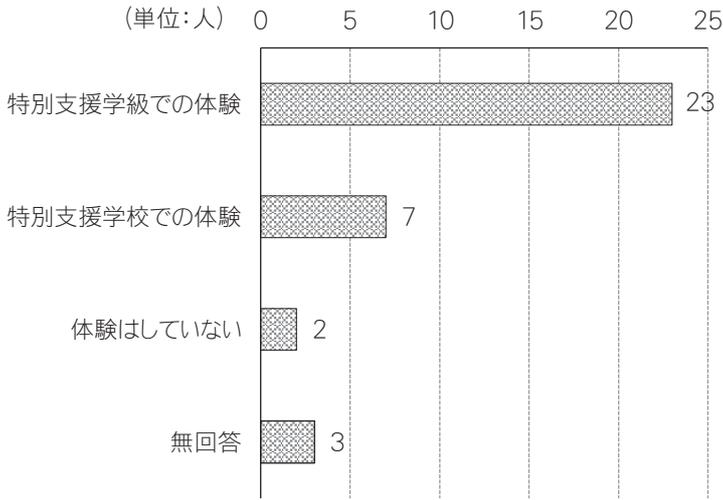
### Q4-2. 【見学した方】良かった点 (複数回答/n=31)



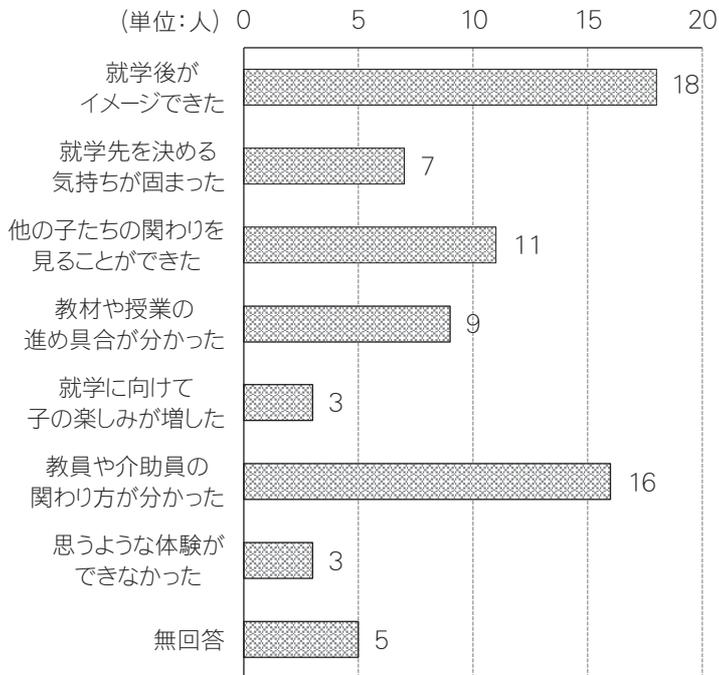
### Q4-3. 【見学した方】改善希望点 (複数回答/n=31)



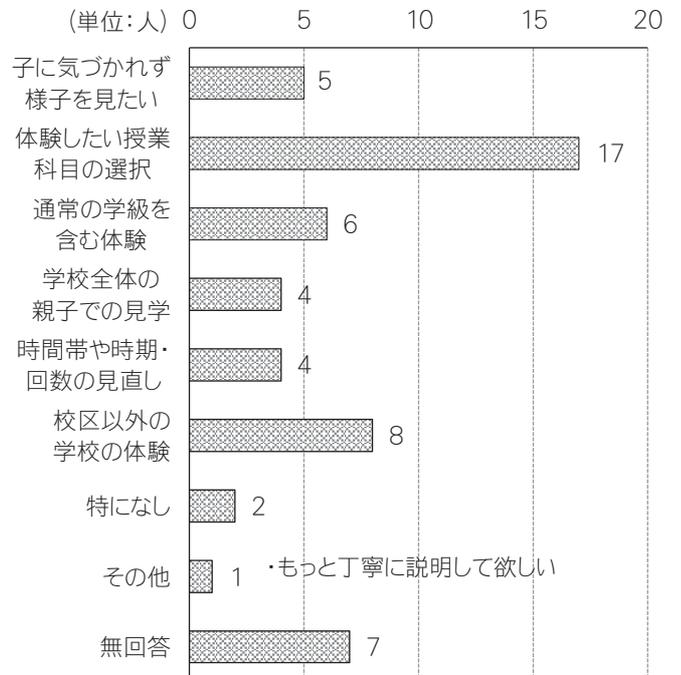
Q5-1. 特別支援学級等の体験(複数回答/n=31)



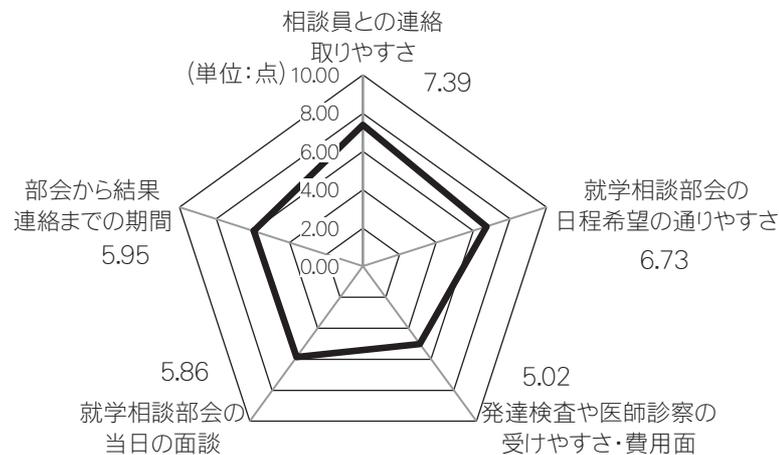
Q5-2. 【体験した方】良かった点(複数回答/n=26)



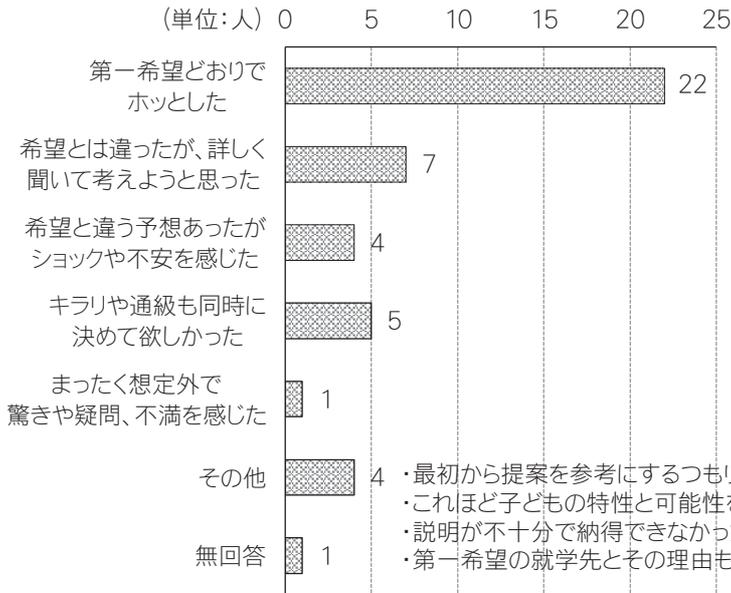
Q5-3. 【体験した方】改善希望点(複数回答/n=26)



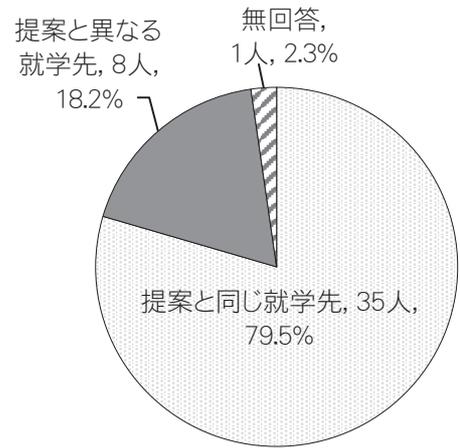
Q6. 就学相談のプロセスごとの満足度(n=44)



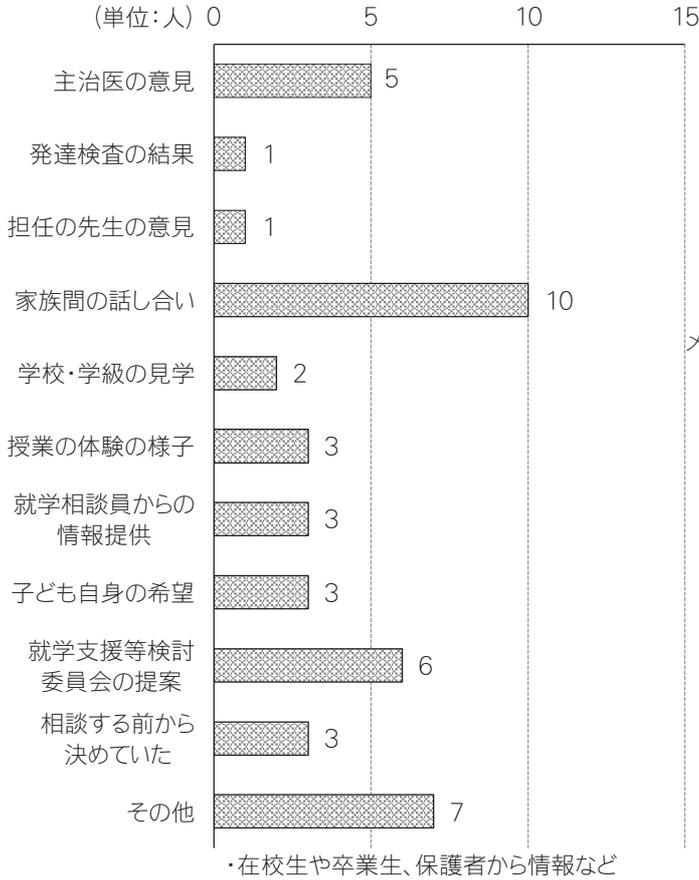
### Q7-1. 提案を聞いたときの気持ち (n=44)



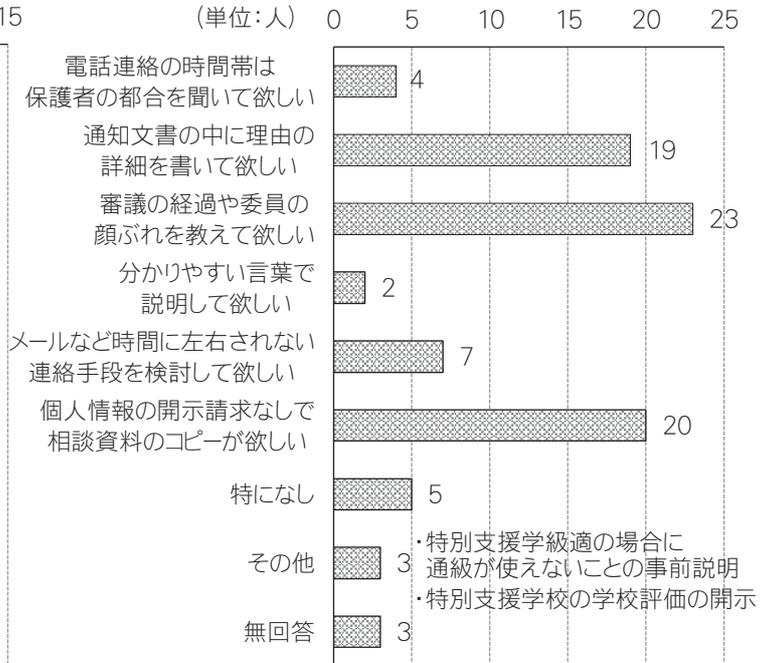
### Q7-2. 最終的な就学先 (n=44)



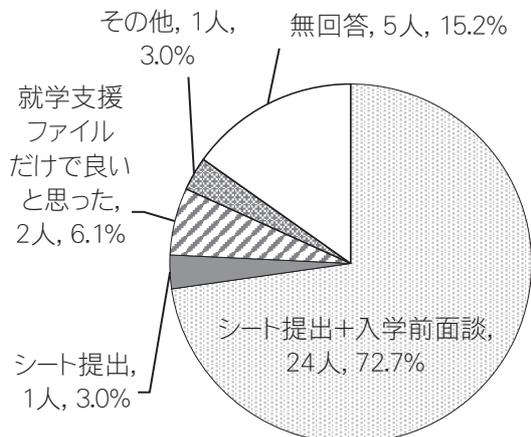
### Q7-3. 就学先決定の最も大きな決め手 (n=44)



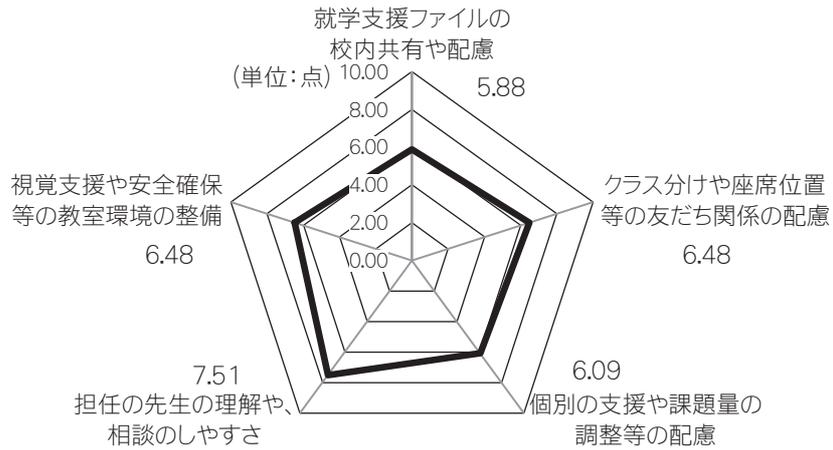
### Q7-4. 提案時の改善希望点 (複数回答/n=44)



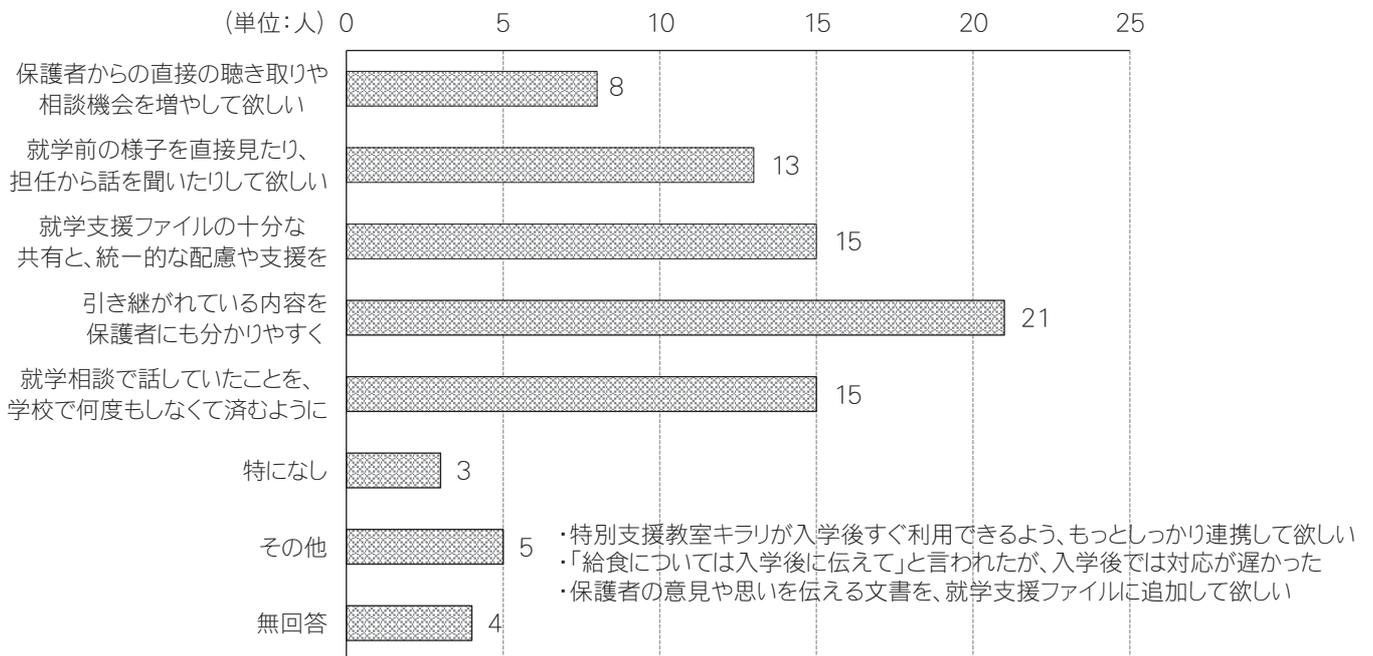
### Q8. 就学支援シート (年長児のみ/n=33)



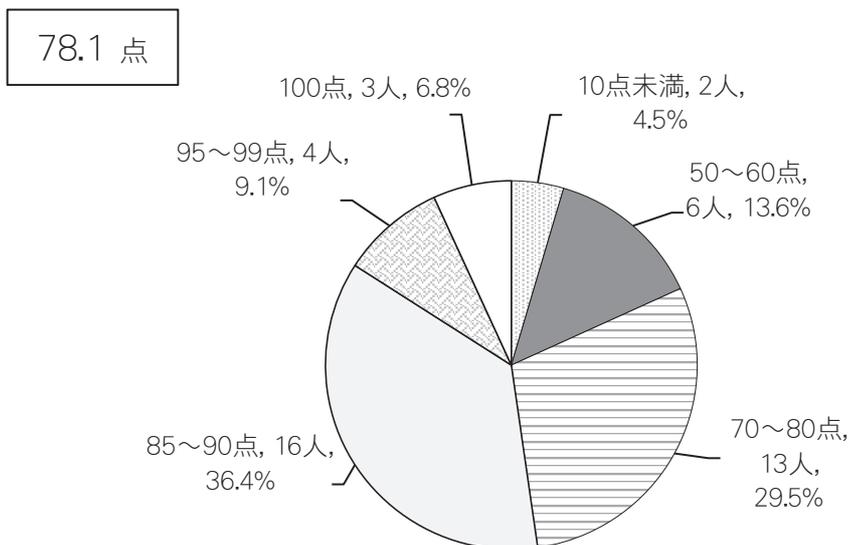
Q9. 就学後の学校生活の満足度 (n=38)



Q10. 学校への引継ぎの改善希望点 (複数回答/n=44)



Q11. 就学相談を100点満点で言うと？ (n=44の平均点)



## 就学相談に関するアンケート

お子さまのご入学から早4か月を数え、酷暑の季節となりました。いかがお過ごしでしょうか。

昨年度の就学相談の折は、面談などに何度もご足労いただきまして、ありがとうございました。今後のよりよい就学相談の実施のため、実際にご利用いただいた保護者の皆さまの貴重なご意見・ご感想をお聞かせいただきたく、アンケートにご協力をお願いします。

ご家庭でのご予約も多い時期とは存じますが、**8月31日（金）**までに、同封の返信用封筒でご返送いただけますと幸いです。なお、期日までに教育支援課と面談等をご予定いただいている場合は、当日、相談員にお渡しくださっても結構です。何卒よろしくお願い申し上げます。

\*\*\*\*\*

### ●ご相談のきっかけ

本用紙の該当欄に、✓や○などを直接ご記入ください。

#### Q1. お子さんはどちらの就学でしたか？

- 小学校への就学 → Q2 (1) へ  
 中学校への就学 → Q2 (2) へ

#### Q2. 就学相談をお申し込みになったきっかけをお聞かせください。(複数回答可)

##### (1) 小学校への就学

- 発達や行動面などで心配があつて  
 就学前機関(保育園・幼稚園等)から勧められて  
 医療機関や療育機関から勧められて  
 子ども未来センター〔親子グループ  
発達相談など〕で勧められて  
 市の就学相談説明会で話を聞いて  
 市のホームページやリーフレットを見て  
 家族や友人に勧められて  
 その他( )

##### (2) 中学校への就学

- 学習や生活面などで心配があつて  
 特別支援学級に在籍していたので  
 医療機関や療育機関から勧められて  
 在籍校の先生から勧められて  
 市の教育相談で勧められて  
 市のホームページやリーフレットを見て  
 家族や友人に勧められて  
 その他( )

### ●初回面談について

#### Q3-1. 初回面談(於：子ども未来センター)は、いつ頃でしたか？○で囲んでください。

( 4月・5月・6月・7月・8月・9月・10月・11月・正確に覚えていない )

#### Q3-2. 初回の「面談時間の長さ」について、お気持ちに近いものを○で囲んでください。

- ①もっと短くて良い (時間がかかりすぎる)    ②もう少し短くて良い (やや時間が長い)    ③ちょうど良い (長さは適切と感じた)    ④もう少し長めが良い (やや時間が足りない)    ⑤もっと長くして欲しい (時間が全然足りない)

#### Q3-3. 初回面談は、ご期待に沿ったものでしたか？ 10点満点でお聞かせください。

- |                         | とても満足 | 普通 |   |   |   |   |   | とても不満 |   |   |   |
|-------------------------|-------|----|---|---|---|---|---|-------|---|---|---|
|                         | 10    | 9  | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3     | 2 | 1 | 0 |
| (1) 相談員の第一印象や話しやすさ      | 10    | 9  | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3     | 2 | 1 | 0 |
| (2) 保護者のご心配やご要望などの聴き取り  | 10    | 9  | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3     | 2 | 1 | 0 |
| (3) 相談の流れやスケジュールについての説明 | 10    | 9  | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3     | 2 | 1 | 0 |
| (4) 就学先決定に関連する学校等の情報提供  | 10    | 9  | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3     | 2 | 1 | 0 |
| (5) 就学先決定に必要な書類等についての説明 | 10    | 9  | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3     | 2 | 1 | 0 |
| (6) 保護者の疑問の解消、不安の軽減     | 10    | 9  | 8 | 7 | 6 | 5 | 4 | 3     | 2 | 1 | 0 |

● **学校見学や授業の体験について**

**Q 4-1. 昨年度、特別支援学級や特別支援学校の「見学」をしましたか？**

- 市内の特別支援学級を見学した（ 1. 相談員と一緒に 2. 個人的に学校公開等の機会に ）
- 都立の特別支援学校を見学した（ 1. 相談員と一緒に 2. 個人的に学校公開等の機会に ）
- 特別支援学級や特別支援学校の見学はしていない →Q 6へ

**Q 4-2. 「見学した」と答えた方にお尋ねします。良かった点は何ですか？（複数回答可）**

- 学校までの距離や通学方法などが確認できた
- クラスの雰囲気や授業の様子が分かった
- 先生に質問などを直接することができた
- その他( )
- 特に新しい情報や、知りたかった情報は得られなかった
- 学校の設備や教室環境が分かった
- 教員や介助員等の指導体制が分かった
- 卒業後の進路状況などが分かった

**Q 4-3. 見学にあたり、改善や工夫を希望される点はどんな点ですか？（複数回答可）**

- 説明の話し方や資料提供等の工夫があると良い
- 通常の学級も含め学校全体の様子が知りたい
- 時間帯や時期、回数を見直して欲しい
- その他( )
- 見たい授業科目が選べると良い
- 学級担任の先生と直接話せると良い
- 校区以外の学校も見学できると良い

**Q 5-1. 昨年度、特別支援学級や特別支援学校の「体験」をしましたか？**

- 市内の特別支援学級で体験をおこなった
- 都立の特別支援学校で体験をおこなった
- 特別支援学級や特別支援学校での体験はおこなっていない →Q 6へ

**Q 5-2. 「体験した」と答えた方にお尋ねします。良かった点は何ですか？（複数回答可）**

- 就学後の子どもの様子がイメージできた
- 他の子どもたちの関わりを見ることができた
- 就学に向けて、子ども自身の楽しみが増した
- その他( )
- 子どもが不安がったり参加できなかつたりして、思うような体験が実施できなかった
- 就学先を決める気持ちが固まった
- 教材や授業の進め具合が分かった
- 先生や介助員の関わり方が分かった

**Q 5-3. 体験にあたり、改善や工夫を希望される点はどんな点ですか？（複数回答可）**

- 体験中、子どもに気づかれずに見られると良い
- 通常の学級でも体験ができると良い
- 時間帯や時期、回数を見直して欲しい
- その他( )
- 体験したい授業科目が選べると良い
- 学校全体を子どもと見て回れると良い
- 校区以外の学校でも体験できると良い

● **就学相談のプロセスについて**

**Q 6. 以下について、どんな印象をお持ちでしたか？ 10点満点でお聞かせください。**

	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
(1) 就学相談員との連絡の取りやすさ											
(2) 就学支援部会の日程の希望の通りやすさ											
(3) 発達検査や医師診察の受けやすさ・費用面											
(4) 就学支援部会当日の面談											
(5) 部会の出席から、結果の連絡が来るまでの期間											

● **就学支援等検討委員会からのご提案と、就学先の決定について**

**Q 7-1. 提案をお聞きになった時点のお気持ちに、最も近いものはどれですか？（1つだけ）**

- 第一希望どおりの提案だったので、まずはホッとした
- 第一希望ではなかったが、内容を詳しく聞いてから、じっくり検討してみたいと思った
- そういう提案が出る可能性も少し想像していたが、第一希望とは違ったのでショックや不安を感じた
- 就学先はともかく、その時点で通級（又はキラリ）の提案や決定が同時に出ることを期待していた
- まったく予想していなかった就学先を提案されたので、驚きや疑問、不満を感じた
- その他（ ）

**Q 7-2. 最終的にお決めになった就学先は、以下のうち、どちらですか？（1つだけ）**

- 就学支援等検討委員会の提案と同じ就学先
- 就学支援等検討委員会の提案とは異なる就学先

※ここでの「就学先」とは、お子さんが就学された「種別」（通常の学級、特別支援学級、特別支援学校）についてお尋ねしています。お伝えした提案と同じであったか否かをお聞かせください。

**Q 7-3. 就学先を決めるうえで、最も大きな決め手となったのは何ですか？（1つだけ）**

- かかりつけの医師のご意見
- 発達検査の結果
- 担任の先生のご意見
- 家族間の話し合い
- 学校・学級の見学
- 授業の体験の様子
- 就学相談員からの情報提供
- お子さん自身の希望
- 就学支援等検討委員会からの提案
- 相談前から一貫して気持ちが固まっていた
- その他（ ）

**Q 7-4. 判断結果に基づいて就学先をご提案することに関して、改善や工夫を希望される点はどんな点ですか？（複数回答可）**

- 落ち着いて話を聞くために、電話連絡の時間帯は、あらかじめ保護者の都合を聞いて欲しい
- 通知文書の中に提案理由の詳しい記載を加えて欲しい
- 審議の中でどんな意見が出ていたのか、経過や委員の顔ぶれも教えて欲しい
- もう少し分かりやすい言葉で説明して欲しい
- 電話でなく、メールなど時間に左右されない連絡手段も検討して欲しい
- 個人情報の開示請求をしなくても、就学相談資料の一式は保護者にもコピーして欲しい
- その他（ ）

● **<立川市立の小学校に就学された方にお尋ねします> 就学支援シートについて**

※特別支援学校に就学された方や、中学校に就学された方はQ9へお進みください。

**Q 8. 就学支援シートについて、状況に最も近いものはどれですか？（1つだけ）**

- 就学支援シートを提出し、入学前の学校面談も行った。
- 就学支援シートを提出したが、入学前の学校面談は希望しなかった。
- 就学相談シートを提出しようと思っていたが、期限までに作成が間に合わず提出できなかった。
- 就学相談を受けていれば資料が引き継がれるので、就学支援シートは提出しなかった。
- 就学支援シートというツールがあることを知らなかった。
- その他（ ）

